

IoT企業と代理店契約

クラウド型監視カメラのネットワーク環境を構築

高千穂交易

高千穂交易（東京都新宿区、井出尊信社長）は、IoT機器の製造・販売を手掛けるテルトニカIoTグループ（リトアニア共和国、以下、テルトニカ）傘下のテルトニカジャパンと販売代理店契約を締結した。高千穂交易はテルトニカとの販売代理店契約の締結により、今後はクラウド型監視カメラのネットワーク環境構築などを進めて

いく。

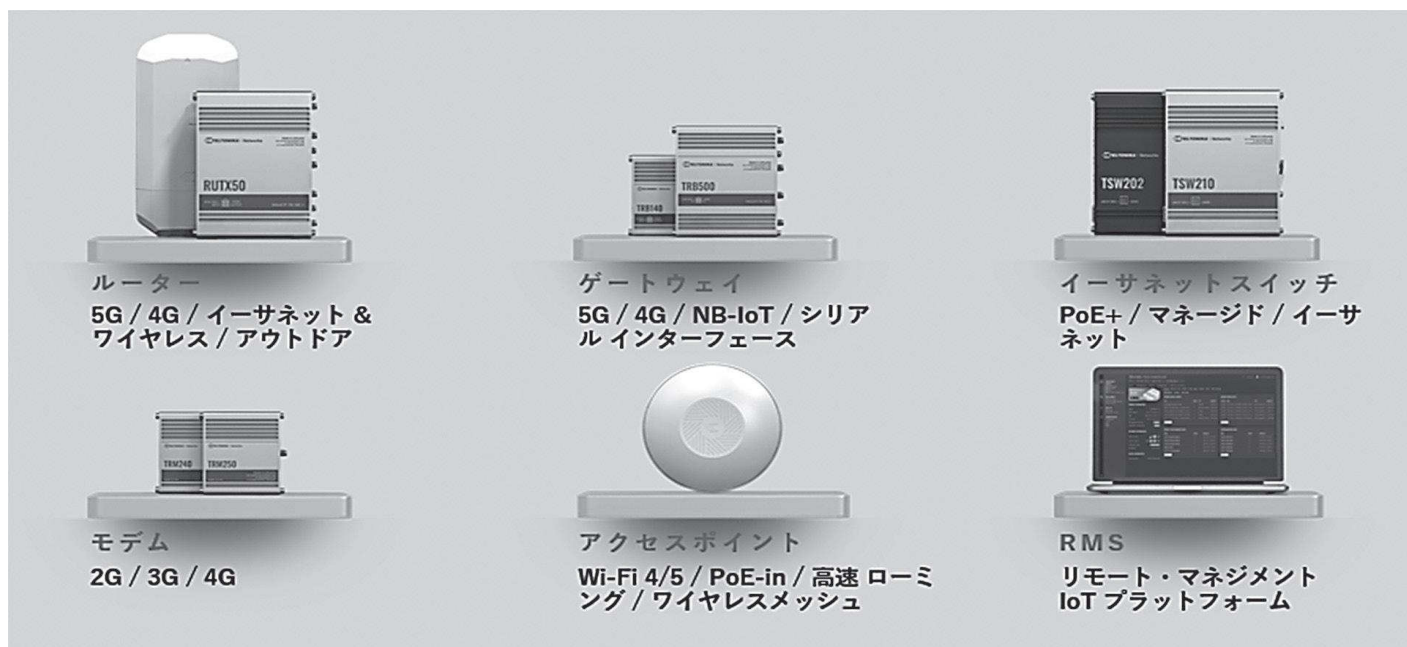
テルトニカは1998年に設立され、ルーター、ゲートウェイ、スイッチ、モデムなどのネットワーク製品ラインアップを展開し、モバイル接続機器企業では世界三指に入る。テルトニカ製品の特長として、堅牢なセキュリティ、最高レベルの耐久性、設定不要の使いやすさなどが挙げられる。

高千穂交易はテルトニカとの販売代理店契約により、テルトニカ製のルーターなどのIoT機器の取り扱いを開始する。

映像監視市場では、クラウド型監視カメラの需要が注目されている。クラウド型監視カメラは、遠隔からでもクラウド上で映像を確認できる。こうした特長が企業から人手不足を補えると評価され、産業用クラウド監視カメラの設置台数が増加している。昨今では防犯用途だけに止まらず、建設現場の業務効率化や災害監視などで屋外設置も増えている。だが、産業用

クラウド型監視カメラの用途に沿ったネットワーク環境の構築には、品質や導入費用の高さが課題となっている。高千穂交易では、主にクラウド型

監視カメラを導入する顧客向けに、テルトニカのIoT機器を販売するとともに、ネットワークの構築から保守に至るまで一貫して提供していく。



テルトニカ製のネットワーク機器